

関数とグラフを使ったレポート作成

前回の課題で合計を計算する作業を行った。(教科書 pp.106,116)

今回は各種の関数や計算式を利用したレポートの作成を行う。

課題 1.

前回の提出課題「生産計画」の合計部分をもとに、以下の要点を漏れなくそれぞれ実行し、結果を印刷して提出せよ。

商品名	前年実績	関東圏	関西圏	その他	合計
野菜物語	19000	13000	12000	7500	32500
これまた茶	18000	17050	15000	3000	35050
爆裂コーラ	21000	6000	8100	5000	19100
つぶつぶ茶	10000	8400	9000	2000	20400
激ウーロン	20000	3000	2000	1300	6300
合計	88000	48450	46100	18800	113350
平均	17600	9690	9220	3760	22670

商品名	前年実績	関東圏	関西圏	その他	合計
野菜物語	22%	27%	26%	40%	29%
これまた茶	20%	35%	33%	16%	31%
爆裂コーラ	24%	12%	18%	27%	17%
つぶつぶ茶	11%	19%	20%	11%	18%
激ウーロン	23%	6%	4%	7%	6%
合計	-	43%	41%	17%	100%

- 教科書 pp.116 の説明に基づいて SUM 関数を用いて計算し直してみよ。縦横の合計セルに関数を入力するには、教科書 pp.112 にあるオートフィル機能が利用できることを試せ。逐一手で計算式などを繰り返して入力するのはタイプミスなどを防ぐ意味からも行わないこと。
(前年合計と今年の合計を足すような意味のないことをしないように。)
- 次に教科書 pp.118 を参照して、これに平均を加える。右図の上半分のようになるだろう。
(数値や並び順は各自で適当に入力しているだろうから、サンプルとは一致しないが気にしない)
- 続いて、図の下半分にあるように、売上数ではなく地域ごとの全体に対するパーセンテージを示す表を作成せよ。具体的には例えば C17 セル (C 列の 17 行目) には計算式として「=C6/C11」を指定すればよい。その計算結果である 0.2345 などの数字を 23% などの形式にするには pp.124 を参照。D17 から G17 セルに計算式を入力するにもオートフィル機能が利用できる。
(C17 セルの内容をオートフィル機能を使って C18 セルに移した場合、意図しない計算結果が現れるだろう。原因と解決法は教科書 pp.155 以降にあるが、次週、またはそれ以降の実習で扱うので、今は気にしない。)

縦横の合計欄にどのような計算式を与えれば意味のある表になるかは各自で考えること。言われた通りに数字を並べるパズルをやっているのではなく、意味のある統計分析の訓練をしていることを忘れずに。なお、サンプルの C22 セルは手作業で「-」記号を入力している。

- 教科書 pp.128 を参照して、下半分のパーセンテージの表には罫線をつける。また、横軸の項目見出しは真ん中揃え (pp.110)、タイトルは大きな文字を設定して体裁を整え、印刷する。罫線のつけ方はサンプルのとおりにならなくて良いので、各自で見やすいと思える体裁に加工する。必要なら教科書 pp.134などを参考に行を挿入・追加するなどせよ。

前回の提出課題を手元に保存していない者はマイコンピュータにある  'wvri' の ReportFolder (x) からたどって、「生産計画見本 2」と名づけられた Excel ワークシートを利用せよ。

講師から OK を得たら、その結果を MO に保存し、課題提出システムを利用して提出しておくこと。

<https://ccwbt.kyoto-su.ac.jp/login.html>

課題 2.

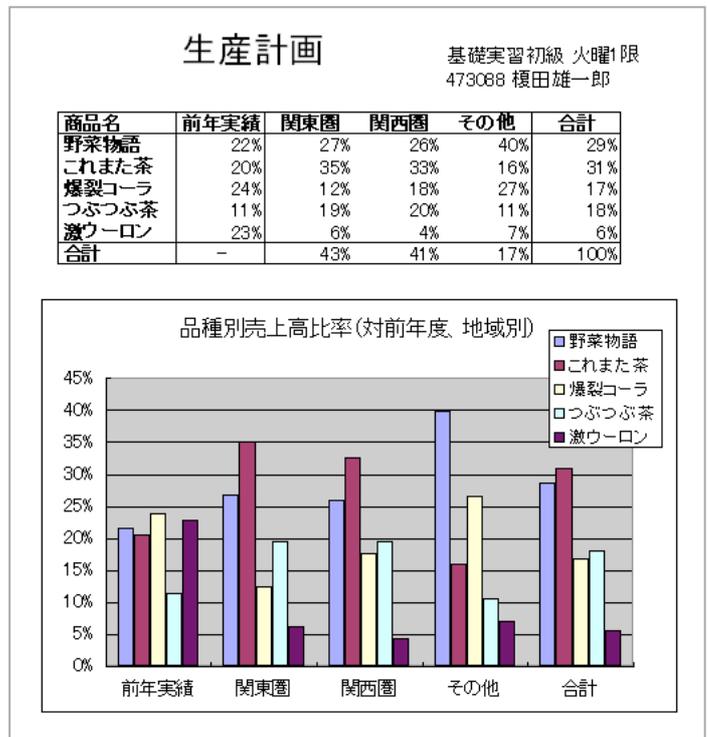
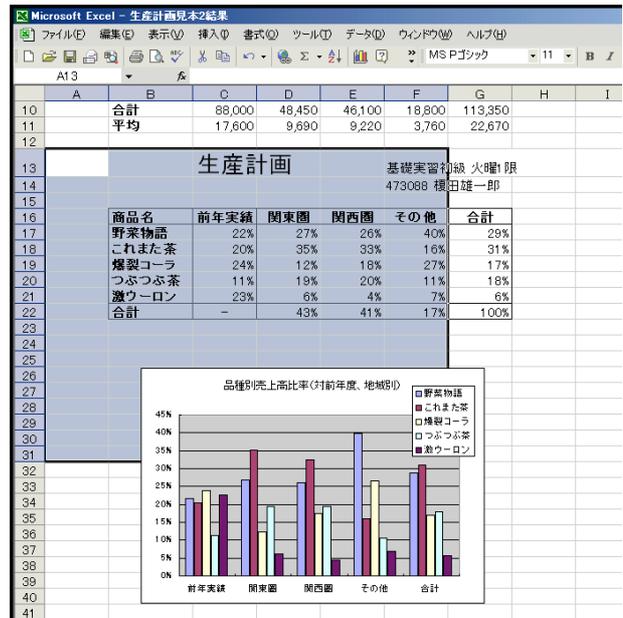
教科書 pp.136 からを参考に、グラフをつけて印刷、提出せよ。グラフの種類は問わない。自分が見やすいと思う形態のものでよい。サンプルはわざとみづらい形式のグラフを出しているの、これを改善するつもりで作ること。

印刷するときには、以下の手順に従って印刷範囲を必要な部分に限定し、不要な部分を印刷しないこと。

1. 右図のように、印刷したい範囲をドラッグして選択する。(右図はドラッグの途中なので実際には全部囲むつもりで)
2. 「ファイル」メニューの「印刷範囲」の中にある「印刷範囲の設定」を選択する。選択していたセル範囲の周囲に点線で枠が付き、これが印刷範囲となる。
3. 念のために印刷前に「ファイル」メニューの「印刷プレビュー」を行って、意図した範囲だけが 1 ページ内にうまく収まっているかどうかを確認する。問題なければ「閉じる」ボタンをクリックして今までやってきた方法で印刷するか、その場にある「印刷」ボタンをクリックして印刷。

最終的には右図のような結果が印刷できるように。グラフの見出し位置や、横軸、タイトルの文字サイズなどは全て調整可能なので、みばえのよいように体裁を整えること。

講師から OK を得たら、その結果を MO に保存し、課題 1. の結果と並べて、課題提出システムを利用して提出しておくこと。
<https://ccwbt.kyoto-su.ac.jp/login.html>



課題 2.までできた受講生は前回の課題の未提出(右)を提出すること。グラフをつけて出すとなおよい。

地域	人数	全体に占める割合(%)
アジア	3,387	94.6
ヨーロッパ	83	2.3
北米	34	0.9
中南米	25	0.7
大洋州	31	0.9
アフリカ	21	0.6
合計	3,581	

出典 平成14年9月
 法務省入国管理局資料から